

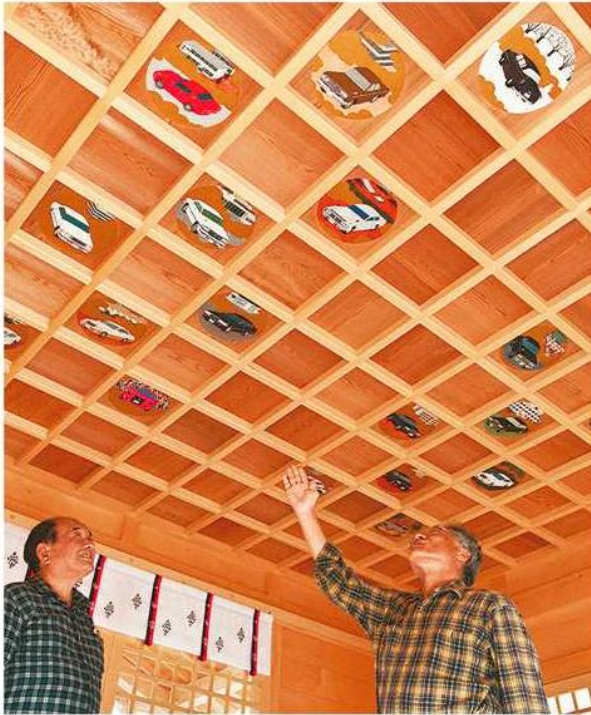
# 天井駆ける歴代クラウン

## 豊田・深田山神社 建て替えてお日見え

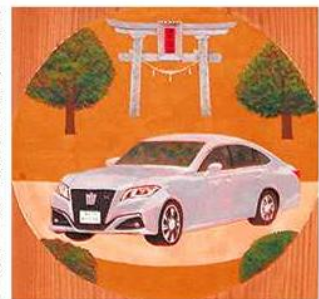
トヨタ自動車元町工場近くに鎮座する豊田市深田町の深田山神社の社殿と拜殿が老朽化で建て替えられ、拜殿にトヨタの歴代「クラウン」を描いた天井絵馬がお目見えした。人工物を描くのは珍しいという、関係者は「クラウンファンの聖地になれば」と期待する。一日には地元住民らを対象に内覧会が行われた。（久野賢太郎）

拜殿の格天井は約五十坪、四方の区画が百五十六あり、うち三十力所に絵馬がはめ込まれた。開設当初の元町工場の建屋と一緒に描かれた初代クラウンから現在の十五代目まで、温かみのあるタッチで描かれている。車両の背景にはその車と同世代の豊田市内やトヨタの生産設備などが描か

## 元町工場お膝元深い縁



初代から15代目までのクラウンが描かれた天井絵馬。いずれも豊田市深田町で



開設当初の元町工場と一緒に描かれた初代クラウン。深田山神社の鳥居と一緒に描かれた現在のクラウン

れ、トヨタとともに発展してきた市の歴史絵巻の趣だ。

植百年記念で建て替えることになった。深田山神社改築委員会の神谷教正さん

愛知教育大の松本昭彦副学長（左）が吉野杉の板にアクリル絵の具で描いた。

（右）は「元町工場のお膝元の神社らしい、最高の天井絵馬に仕上がった」と喜ぶ。

「天井に描くといえば動植物など自然のものが多い。珍しいものにと考えていたら、元町で生産されているクラウンを思いついた」と打ち明ける。松本さんが氏子に相談し、採用が決まった。

神様の乗り物とされる本物の馬を神社に奉納する代わりに馬を描いた板を納めたことにちなむ絵馬。同じ「乗り物」の自動車が描かれたことに、神谷さんは「原点回帰かな」と笑う。

氏子らによると、神社は一九五八年ごろまで現在の元町工場がある場所に立っており、敷地をトヨタに提供。南西に一キほど離れた現在地に移転したといい、工場との縁は深い。社殿と拜殿の老朽化と一帯の入

普段は自由に見学ができないが、一日に続き二日も午前十時～午後四時に一般の見学が可能。